



C型肝炎



早期発見・早期治療が鍵!!

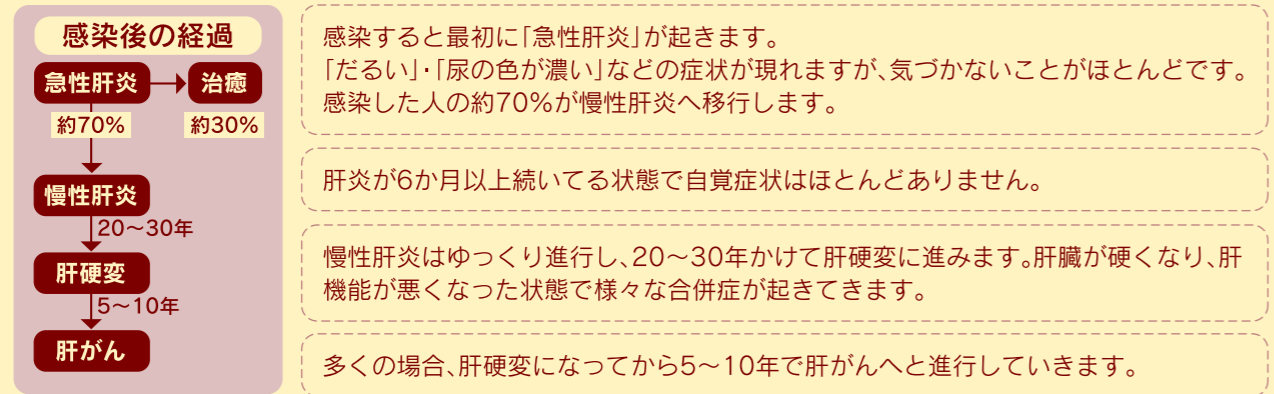
昨年末、国を動かした「薬害肝炎訴訟」の成果により今年4月からC型肝炎(およびB型肝炎)のインターフェロン治療に対する医療費助成が始まりました。医療費助成は感染の原因を問わず受けられます。

※世帯の市町村住民税(所得割)課税年額に応じて、下表の自己負担限度額を超えた医療費の額が助成されます。

区分	自己負担限度額(月額)
A	世帯の市町村民税(所得税)課税年額が65,000円未満の場合 10,000円
B	世帯の市町村民税(所得税)課税年額が65,000円以上235,000円未満の場合 30,000円
C	世帯の市町村民税(所得税)課税年額が235,000円以上の場合 50,000円

助成を受けるには申請して知事の認定が必要です。その際は専門医の診断書が必要なのでかかりつけの医師に御相談下さい。現在、助成期間は1年間となっています。

C型肝炎とは… C型肝炎ウイルスに感染して起きる病気です。



C型肝炎に感染しているかどうかは血液検査でわかります

< C型肝炎ウイルスに感染している可能性がある人 >

- 1992年以前に輸血を受けたことがある
- フィブリノゲン、第九因子製剤などの輸入非加熱血液製剤の投与を受けたことがある
- 長期間血液透析を受けている
- 以前大きな手術を受けたことがある

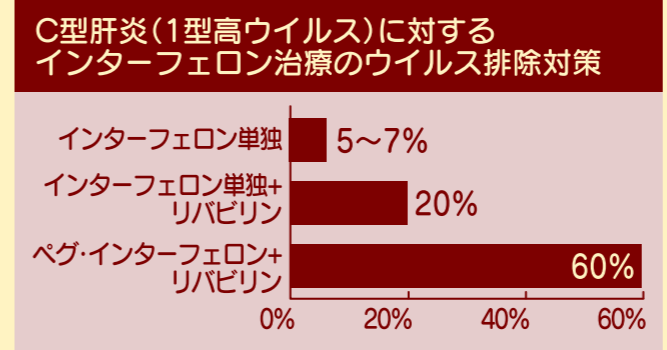
といった人は、感染のリスクが高いと考えられます。このほか、予防接種での注射針の使いまわしなども感染の原因と考えられています。日常生活の中では感染する心配はありません。

C型肝炎の治療

C型肝炎の治療には大きく分けて、2つあります。

- ① C型肝炎ウイルスを排除する治療(インターフェロン治療)
- ② C型肝炎の進行を遅らせる治療(ウルソデオキシコール酸の内服、グリチルリチン酸の静脈注射など)

インターフェロンによるウイルスの排除率



グラフでわかるように日本人のC型肝炎で一番多い「1型で高ウイルス」の場合、ペグ・インターフェロンとリバビリンとの併用療法が効果が大きいので、現在インターフェロンによる治療の主流となっています。

ペグ・インターフェロンとリバビリンの併用治療

- 週に一回ペグ・インターフェロンを注射する。
- 免疫力を高める内服薬リバビリンを毎日服用する。
- 治療期間は24週間から48週間、場合によっては72週間続ける。(治療期間はウイルスの型や量によって異なります。)

副作用

- ・ ペグ・インターフェロンは「発熱」「頭痛」「皮フのかゆみ」、まれに「うつ」などが出る場合があります。
- ・ リバビリンでは「貧血」などが現れる場合があります。

このような副作用が出たとしても、その対策を含めた治療が行われますので継続して治療することが可能です。

現在、C型肝炎ウイルスに感染している人は国内で約200万人いると推定されています。そのうち約150万人は検査や治療を受けていないと考えられており、そのまま治療しないと「肝硬変」や「肝がん」に進行することがあります。最近では、C型肝炎を早期に発見できれば完全に治癒したり、進行を防ぐこともできるようになってきました。まずは検査を受けてみる事が大切です。